

# 鼠径（そけい）ヘルニア



健診センター長  
外科医師  
石尾 哲也

山香病院だより vol.30

鼠径ヘルニアとは、一般に『脱腸』と呼ばれる良性の病気で、足の付け根の部分を『鼠径部』と言い、成人の鼠径ヘルニアでは、その鼠径部の組織が脆弱になり、お腹の中にある腹膜が袋状に飛び出してくることにより起こります。

鼠径ヘルニアの症状には、鼠径部の不快感や痛み、立った時・お腹に力を入れた時に認める鼠径部の柔らかい膨隆などがあります。通常は、指で押さえるだけで引っこみますが、急に膨隆が硬くなり、指で押さえても引っこまなくなる場合があります。それは、ヘルニアの『嵌頓』と言い、脱出し

た腸が締め付けられ、血液が行かなくなるため、緊急の手術が必要になります。

鼠径ヘルニアは物理的な体の変化であるため、自然に改善することもなければ、お薬で改善することもありません。よって、唯一の治療は手術になります。鼠径ヘルニアの手術の基本は、一つは、袋状に飛び出した腹膜（ヘルニア嚢）を切除することで、もう一つは、弱くなった組織である鼠径管の後壁の補強を行うことです。従来法では、この補強を自己の組織同士を縫合して行っておりましたが、過度の緊張がかかるため再発率が高く、術

後の疼痛が強いために、現在では、9割以上の鼠径ヘルニアの手術が緊張のかららないメッシュを使用する方法で行われています。さらに当院では、①術後疼痛が軽度で、仕事復帰・社会復帰が早い。②術後の慢性痛・感覚鈍麻が少ない。③血腫・創感染の術後合併症が少ない。という理由で、腹腔鏡下手術を第一選択としております。（しかし、腹腔鏡下手術の場合、全身麻酔を必要としますので、全身麻酔ができない患者さんの場合は、鼠径部を数センチ切開する方法で行っております。）

鼠径ヘルニアは、がんとは違うため、絶対に手術を行わなければならないというわけではありません。しかし、手術を受ければ、症状は改善し、嵌頓の危険性もなくなります。一方、手術を受けなければ、一生症状は不変もしくは増悪し、常に嵌頓の危険性があります。鼠径ヘルニアに対する手術は、いずれの方法でも非常に侵襲の小さな手術であり、術後、数日〜7日間で退院が可能です。鼠径ヘルニアの方には、ぜひ手術をお勧めします。

鼠径ヘルニアでお悩みの方は、お気軽に当院外科にご相談下さい。